

【元祖・袋とし超H附録】'98最新版「流出」裏ビデオ絶頂シーン20

週刊現代

発見撮!巨人・高橋由伸がヒタ隠す「田園調布の豪邸と美女」

銀行を食った大蔵省(秘)「霞桜会」^{会員}のカネと女

感じる!超セクシー6 雛形あきこ・吉川ひなの・榎本加奈子^{ほか}

「出身地別」フェロモン大合戦
進藤晶子vs.雨宮塔子^{ほか}
美女アナ東西対抗

「凶暴の時代」
「キレる子ども」
チェック・テスト50^{項目}

ついに開幕!
TVで長野五輪
東京・大阪全番組ガイド

日本サッカー豪州合宿
岡田・柳沢・中田
「3つの亀裂」

東京・名古屋・大阪
「ワインで和食」
二人だけの名店40

「負けてたまるかつ」
働き盛りの
ガン闘病記

1998
2/21
¥300

やっぱりあった!
ノーパンしゃぶしゃぶ嬢
「官僚接待AV」

環境ホルモンの恐怖
実験報告!
「危ないカップめん」

真弓明信「虎キチ速報」
'85年超えた!
阪神新クリーンナップ

様変わり
「激安ショッパ」
今一番安いのは
ここだ



おやじ、 ありがとう

37

愚父・慈父・厳父

西和彦

(41歳・株式会社アスキー社長)
父・西邦大



’56年2月10日、兵庫県生まれ。
早稲田大学理工学部在学中の
’77年アスキーを設立。’87年、
社長就任。東京工業大学、早
稲田大学の講師も務める

頑固者の父と発作的に行った鳥取砂丘

僕の家は10人近い大家族だったが、子供は僕と妹の2人きり。学校の先生をしていた祖父母をはじめ大勢の大人に囲まれ、甘やかされて育った。だが、父は家族の中で唯一厳しく、怖い存在だった。元銀行員。大正生まれの頑固者。特

攻隊員の生き残りで、いまでも戦没者供養の寄付や墓参を欠かさないが、そのことはあまり語らない。ある日曜日の朝、父が「お前の好きなところへどこでも連れて行ってやる」と言い出した。小学4年生だった僕が「鳥取の砂丘が見

たい」と答えると、父は二つ返事で車を出し、神戸の自宅を出発した。到着したのは夕方4時過ぎで、辺りはすでに薄暗くなり、砂丘を見たとは言えないまま、また帰路に。ほとんど車に乗っているだけの日帰り旅行だった。帰り道に、助手席で眠っていた僕が目覚ますと、隣の父は黙々と運転中。その父の横顔を見ながら、「どこでも連れて行ってやる」という自分の言葉を守ってくれた父に、とてつもない頼もしさを感じたのを覚えている。そういえば僕もこの頃、同じような言葉を子供に言うようになった。

父は言ったことや思ったことを、すぐ実行に移す人間だった。そして同時に新しもの好きでもあった。だから、タイプライターや電子計算機やプログラム計算機など当時の新製品をいち早く購入していた。こうした環境や体験が僕の目を世界に向かわせ、コンピュータという仕事への芽を育んだ。

78歳になる父はいまも現役で私立高校の理事長をしているが、これまで心臓病で5回も倒れている。病院に駆けつけるといつも、「何しに来た。帰れ」と威勢がいい。こんな父に「元気でいて……」などと言うと「お前、アホか」と一蹴されることはわかっているので、こう言い換えようと思う。

「これからも毎年8月15日に鹿児島・知覧に参拝して、戦友を慰められるよう、ずっと健康でいてほしい」



僕が1歳のころ、父・邦大(38歳)の膝に抱かれて、神戸市の自宅にて撮影